

膀胱癌スクリーニング

最終更新日：2018年7月

<要約>

- ✓ 尿潜血検査，尿細胞診による膀胱癌検診の利益と害についての根拠は不十分である。

<文献レビューの結果>

◆ 疫学

日本人男性の膀胱癌による死亡率は米国人と比較して半分強であると推定される^{1,2}。

【死亡率】(/10万人・年)

	40-44 歳	50-54 歳	60-64 歳	70-74 歳
日本 男性 2015 年	0.3	1.3	6.2	18.2
日本 女性 2015 年	0.2	0.5	1.4	4.4
米国 男性 2010-14 年	0.4	2.5	9.7	29.5
米国 女性 2010-14 年	0.2	0.9	2.8	8.6

◆ スクリーニングの選択肢と，おのこの利益と害

- 尿潜血検査
- 尿細胞診
- 尿中バイオマーカー

尿潜血検査，尿細胞診，尿中バイオマーカーによる膀胱癌検診の利益と害についての科学的根拠は不十分である。

膀胱癌のスクリーニング手段として，尿検査試験紙による尿潜血反応，尿細胞診，尿中バイオマーカーなどがあるが，US Preventive Services Task Force は 2011 年の推奨で尿潜血検査，尿細胞診による膀胱癌検診の利益と害についての根拠は不十分であると結論づけている³。日本人の膀胱癌の死亡率が米国よりも低く，よりすぐれたスクリーニング手段などが提示できない状況で，日本においてより高い推奨度を出さず選択は考えにくい。

一般的に，膀胱癌に対する尿潜血反応の感度は高いが，特異度は低く，たとえばある研究では 60 歳以上の尿潜血患者のうち膀胱癌を有した患者は 2~3%であった⁴。日本では健康診断，健康診査や人間ドックなどで尿検査試験紙による尿潜血反応を含めた尿定性検査が膀胱癌検診とは異なる文脈でひろく施行されており，尿潜血陽性者に対する膀胱癌の精密検査は，本推奨とは別のものとコンテキストで捉えるべきである。

参考文献

- 1) 国立がん研究センターがん対策情報センター. がんの統計 ' 16 : [国立がん研究センター がん登録・統計].
https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/backnumber/2016_jp.html.
Accessed March 10, 2018.
- 2) National Cancer Institute. Cancer Statistics Review, 1975-2014 - SEER 2018.
- 3) US Preventive Services Task Force. Final Update Summary: Bladder Cancer in Adults: Screening - US Preventive Services Task Force.
<https://www.uspreventiveservicestaskforce.org/Page/Document/UpdateSummaryFinal/bladder-cancer-in-adults-screening>. Published 2011. Accessed March 10, 2018.
- 4) Britton JP, Dowell AC, Whelan P, Harris CM. A community study of bladder cancer screening by the detection of occult urinary bleeding. J Urol. 1992; 148(3): 788-790.
<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/1512826>. Accessed March 10, 2018.